

ゴールドウイングが進化していく過程で、どのような変更があったかをリストアップすると膨大な量となります。明らかに認識できる変更もいくつかはありますが、気づかないような細部にわたる進化が絶えず繰り返されてきました。ここでは主要諸元や装備に限定して、年ごとやモデルごとの違いを簡単にまとめていきます。

(Honda が日本に輸入・販売を開始した 1988 年以前のモデルの内容はアメリカ仕様となります)

### 1975 年モデル

初代ゴールドウイング(GL1000)は、999cc 水冷水平対向 4 気筒エンジンを搭載し、モーターサイクルにおけるツーリングに革命をもたらしました。燃料タンクには電気系パーツと収納スペースを内蔵し、アルミリムのスポークホイールを標準装備。エキゾーストシステムはブラックペイントされ、クローム仕上げのマフラーガードとテールパイプが装着されていました。



1975年 GOLDWING (GL1000)

### 1976 年モデル

発売から 2 年目には、スタンダード仕様以外に特別仕様のゴールドウイング GL1000LTD が追加されました。LTD には、ゴールドストライプ、専用サイドカバーエンブレム、クロームラジエーターシュラウド、スクリーン、キルトパターンをあしらったシート、ゴールド塗装仕上げのホイールを装備。さらに、ゴールドのスタンプが入ったゴールドウイング (GL1000) 用オーナーズマニュアル、レザーキーケースなどが付属されていました。



1976年 GOLDWING (GL1000) LTD

### 1977 年モデル

ゴールドウイングの人気が高まるとともに、世の中のツアラーに対する考え方が変わっていききました。それにともないユーザーからの要望に応え、細部にわたり重要な改良が施されました。まず、ハンドルバーの形状が変わって位置が高くなり、ネオプレン製グリップのデザインも変更。さらにライダーとパッセンジャーそれぞれにデザインされたシートが新たに装備されました。



1977年 GOLDWING (GL1000)